

2) 稚魚ネット採集標本からみた2001年生れのアユのふ化日組成

田中秀具・井出充彦・大山明彦・酒井明久・鈴木隆夫・氏家宗二

【目的】湖産アユのふ化時期を把握し、従来の産卵調査・ヒウオ生息状況調査による資源の量的把握に詳細な検討材料を提供し、よりきめの細かい漁況予測を実現する。

【方法】2001年9月30日～12月18日の間に10回の稚魚ネット（通称、ヒウオ曳網）による仔稚アユ採集調査を行い、湖内各地で採集した仔稚アユ標本775尾について耳石日周輪を読みとり、各個体のふ化日を推定し、2001年産アユのふ化日組成を求めて、過去3年のふ化日組成と比較し、その特徴を検討した。

【結果および考察】①1999年、2000年、2001年産アユのふ化日組成を図1.に示す。

標本から推定された2001年のアユのふ化期間は9月5日～11月16日で、過去2年とほぼ同時期であるが、やや長期間にわたる傾向にあった。ちなみに、8月21日～22日の台風第11号により、産卵河川の産卵床が洗われ、その後も産卵期間を通じて産卵河川の通水状況が良好であった。

②ふ化日組成は9月11日頃、9月21日頃、および10月上旬にピークのある3峰型であった。

③2001年の人工河川からの流下仔アユ数の経日変化を図2.に示す。9月上旬まで天然産卵河川の濁水により天然由来の流下が9月中旬後半までなかった昨年と異なり、今年は9月上旬から天然産卵由来の仔魚の流下が多かったため、明確ではないが、図2.の人工河川からの流下パターンとの比較から、第1ピーク（の突出部分）は人工河川からの流下仔アユによるものと思われた。

④2001年のふ化日組成の最も大きな特徴は、9月生れ、特に9月20日以前にふ化したアユの頻度が高いことであった（図1.）。即ち、1999年生れが9.9%、2000年生れが10.2%に対し、2001年生れは28.1%であった。また、3月のヤナ漁獲アユは、9月生れが殆どを占める（1999年～2001年の3月のヤナ漁獲アユのデータによる）ことから、2002年は、河川水量、気象状況等に異常がなければ、3月を中心とする早期のヤナ漁場への来遊（河川への遡上）も多くなることが予測された。

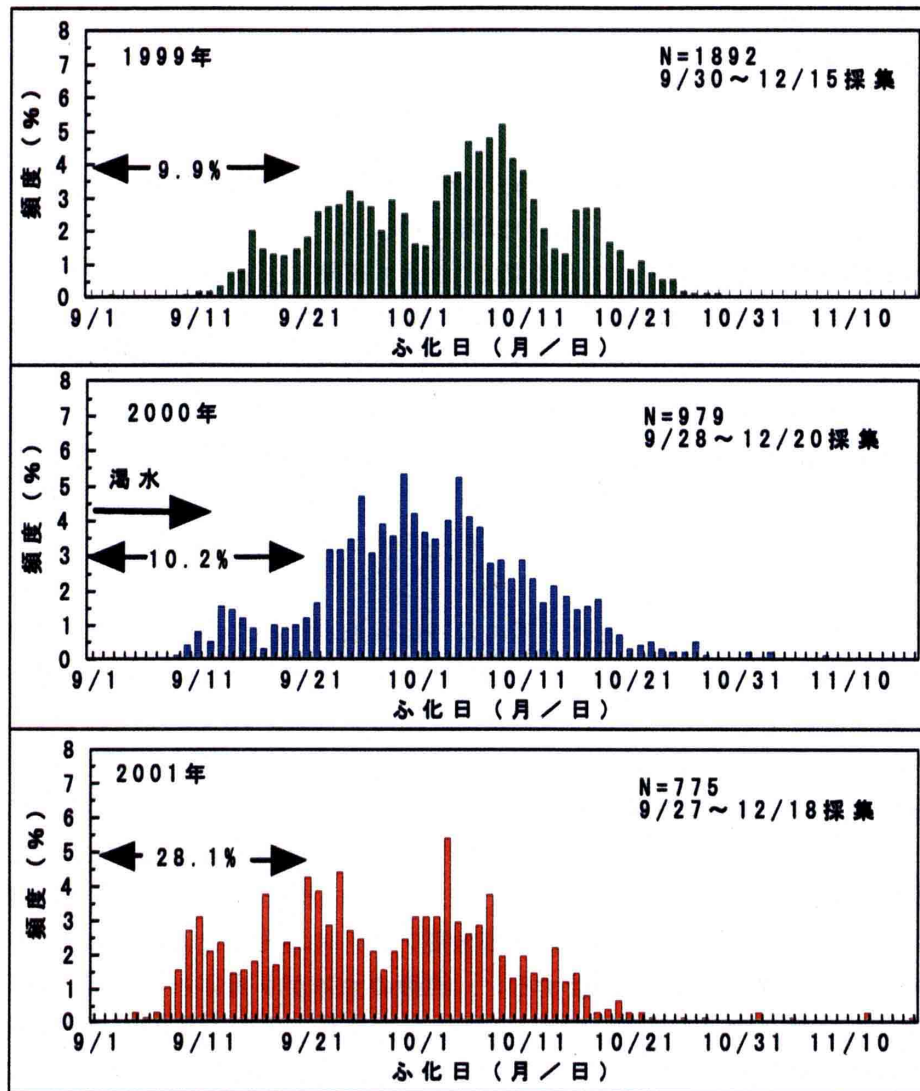


図1. 1999年~2001年の稚魚ネット採集アユのふ化日組成比較

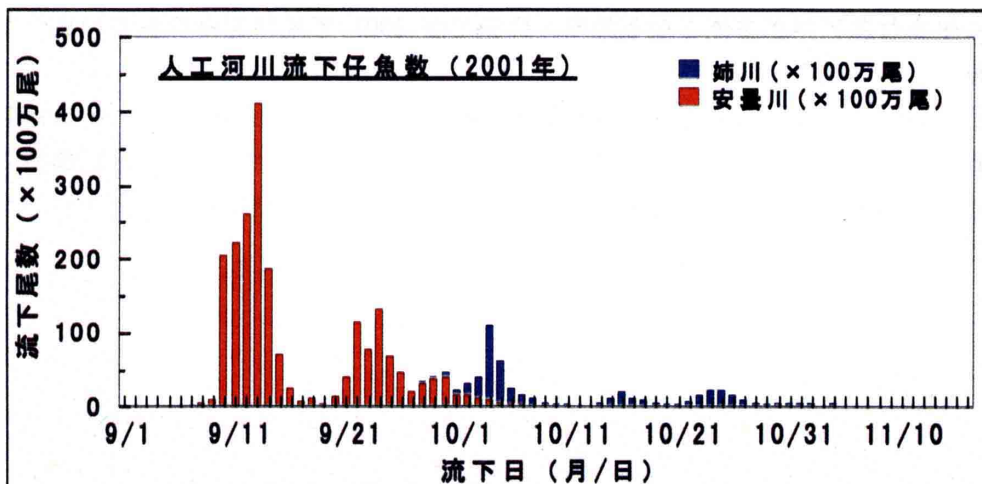


図2. 人工河川流下仔魚の経日変化 (2001年) *

* 図2. は滋賀県水産振興協会資料に基づきグラフ化したものである。